

平成28年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

イメージを伝え合い、協働する喜びを感じる音楽科授業
～言語活動を活かした授業づくり～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	人数	場所
5/26	10	甲佐中	7/2	矢部中	平尾豊	1/27	10	広安西小

3 研究の概要

(1) 研究の内容

「研究テーマについて」

新たに学習指導要領に「共通事項」が示され、音色やリズムなどの音楽を形づくる要素を手がかりに、思い描いたイメージを音楽表現へと具現化する授業を進めていくこととなった。これまでは「共通事項」を手がかりとした授業実践を考える上で重要になる「言語活動」について研究を行った。そして、言語活動を授業実践にどのように取り入れていくのかについて今後も研修を深めていくことになった。

第1回の教科等研で言語活動を取り入れていく中で課題となることを話し合い、授業展開を考える上で、複数人で話し合う活動をどのように行うかについて話題が集り、言語活動の中でも特にペアやグループでの活動に絞り、授業の中でどのように実践していくのかについて研究することにした。

また、学習指導要領解説に述べられている音楽科における言語活動のポイントには、「生徒の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、友達と意図を共有しながら音楽表現をして、協働する喜びが感じられるような授業を展開する」と示されている。

以上のことから、「協働する喜びを感じる」言語活動を中心として研究を行った。

「研究の流れについて」

研究テーマに沿って進めていくために、実践授業における「協働する喜びを感じる」言語活動の具体的な場面を話し合い、以下の3つを考えた。

- ① 小アンサンブルなど様々な編成を工夫して、生徒が表現したい方法や形態を選択して取り組むなど、生徒一人一人が個性を発揮し、主体的に活動できる場面
- ② 合唱や合奏等、学級全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合う場面
- ③ 鑑賞で楽曲の特徴を感じ取る過程で、ねらいに応じて、感じ取ったり気づいたりしたことを音楽の要素と関わらせながら話し合う場面

①について具体的な授業を考え、研究授業を行うことにした。実践に向け、配慮する事柄についても考え、「生徒の意図や意図を基に音楽の要素と関わらせながら表現活動を行うために、グループでの話し合いや全体発表で、感じ取ったことを音楽の要素と関連させながら話し合う場を設定する。」などの意見が出された。

②、③については各学校で実践を基に、来年度からの年間計画及び評価基準について第3回で再検討をした。

(2) 成果と課題

「本年度の成果」

- 第1回は、これまでの授業実践を振り返り、できていること、できていないことについて話し合いを行った。構成的グループ・エンカウンターの手法を用いることで、参加者の意見をまとめたり、深めたりできる話し合いになった。
- 第2回は参観授業を行い、協働してペアやグループで活動するために、教材や教具の工夫の仕

方や活動の在り方について検討した。教材を工夫することで、創作した音楽を視覚的にとらえることができ、活動が活発に行われた。また、研究協議では、言語活動を活かした授業の組み立て方について考えることができた。

- ペアやグループで話し合うだけに終わらず、最後にもう一度生徒が一人で考える場面をつくり、自分の意見をまとめる時間を確保することで、生徒がしっかりと考えた上で表現の工夫や感想などを書くことができていた。
- 第3回では、研究テーマに沿って、言語活動の具体的な場面を3つ考えておくことで、創作や伝統的な歌唱などの新たな分野の実践報告が増え、研究テーマについて議論を深めることができた。
- 新しい教科書に合わせて、年間指導計画を見直した。題材や教材が変更されたので、学習指導要領の目標との整合性や「共通事項」の位置付け方などを検討した。教材ごとに評価や言語活動の取り扱い方等について考え直すことができ、言語活動の焦点化を図る機会となった。

「来年度への課題」

- ▼ 新たに採用された楽曲の指導法について研修を行う必要がある。講師を招聘して夏期研修会を予定している。
- ▼ 実践報告会で、「言語活動」を活かした授業実践について、互いの実践を持ち寄る機会をつくる。特に、教材や教具について実践を出し合う。

3 実践事例

題材 「曲の構成を理解して、曲想を味わおう。」

教材 「Let's Create!」(教育芸術社 2・3上 P. 30、31)

(1) 授業の様子

【参観授業】

2年生の題材「曲の構成を理解して、曲想を味わおう。」の授業が行われた。

本時では、「Let's Create!」(P. 30、31)に取り組み、「曲のしくみ」を参考にして、言葉によるリズム・アンサンブル曲を創作した。野菜の名前を基に、言葉の抑揚から基本となるリズムをつくり、そのリズムを拡大したり、他のリズムと重ね合わせ足りして、全体の構成を組立ながら創作を行った。

個人で基本のリズムをつくり、リズムを拡大したり反復させたりして、野菜の名前ごとに2小節のリズムを創作した。その後、班ごとに創作したリズムを発表し、互いのリズムの特徴について話し合わせた。また、野菜の組み合わせを変えて一緒に演奏させることで、リズムの違いによるリズムの重なり合い方についても感じ取らせた。

生徒たちは班で手拍子をしながらリズムを聴き合うことで、音楽の構成に気づき、発表では活発に意見が出され、意欲的な学習となっていた。

【研究協議】

- 個人や班などの学習形態を工夫することで言語活動がより良い活動になることが分かった。創作は、班で行う体験の場を持つことで、歌ったり演奏したりしながら話し合いを行うなど、意欲的な活動になると考えられる。
- 音楽は、言葉だけでは伝えられないイメージがあり、それは実際に歌ったり演奏したりすることで伝わることもある。今回、班活動を行うことで歌って試しながら創作活動を行っていたことが大きな収穫だった。音楽における言語が音楽そのものであることを改めて実感した。
- ▼ 学習活動の4は、生徒は十分に理解できていたので説明を短くして、活動時間を長くした方がよいと思った。例えば、活動をしながら音の長さやリズムの違いを学習していく展開が考えられるので、工夫することができる。



(2) 学習指導案

矢部中学校第2学年2組 音楽科学習指導案

平成28年7月5日(火) 第5校時

指導者 教諭 平尾 豊

- 1 題材名 「曲の構成を理解して、曲想を味わおう。」

題材のねらい

表現したいイメージをもち、言葉からもとなるリズムをつくり、それらを組み合わせたり反復、変化させたりしながら構成や全体のまとまりを工夫して、リズムアンサンブルをつくる。

教材名「Let's Create! (教科書P. 30、31)」

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領に示された、音楽第2学年及び第3学年のA表現の指導事項(3)創作「イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。」を指導するものである。

この事項は、表現したいイメージ、音素材の特徴、反復、変化、対照などの音楽を構成する原理をかかわらせ、全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる能力を高めることをねらいとしている。生徒が自分で思い描いたイメージをもちながら学習を展開することが重要であり、特定の音楽様式に限定させず、創作活動の源となるイメージをもたせることが大切である。

(2) 生徒観 (省略)

(3) 指導観

この題材で用いる「音素材」は、サラダの材料となる野菜の名前となる。その名前の語感や抑揚から「音素材」の特徴を理解し、自己のイメージや音楽を形づくっている要素とかかわらせながら、それらを生かして創作することが大切である。

指導に当たっては、野菜の名前の語感や抑揚から2小節(8拍)のリズムづくりとその発表を行うことで、創作の楽しさや喜びを実感できるようにしたい。また、それぞれの野菜を名前からつくった2小節のリズムを、反復、変化、対照などしてリズムアンサンブルへと発展させる活動をととして、音楽を構成する原理の働きや、全体的なまとまりが音楽として意味をもたらすことに気付くようにさせたい。

さらに、学習を効果的に進めるために生徒同士の間発表や相互評価の場面を設けるなど、学習の場を工夫する。

3 題材の評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能
題材の 評価 規準	反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	リズムや構成などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化などの構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	反復、変化などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な課題に沿った音の組み合わせ方を身に付けて音楽をつくっている。
具体の 評価 規準	○おおむね満足できる(B)と判断される状況の例 反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組んでいる。 ○十分満足できる(A)と判断される状況の例 反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに興味をもち、それらを生かし音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に楽しく主体的に取り組んでいる。 ○B基準未満の生徒への指導の手だての例 複数の例を示しながら、それらを組み合わせさせて作らせる。	○おおむね満足できる(B)と判断される状況の例 リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージをもち、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 ○十分満足できる(A)と判断される状況の例 リズム、リズムの重なり方、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージをもち、どのように音楽をつくるかについて明確な思いや意図をもっている。 ○B基準未満の生徒への指導の手だての例 リズムや構成について理解できるように支援し、思いを引き出しながらつくらせる。	○おおむね満足できる(B)と判断される状況の例 反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な音の組合せ方、記譜の仕方を身に付けて音楽をつくっている。 ○十分満足できる(A)と判断される状況の例 反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な音の組合せ方、記譜の仕方を十分に身に付けて音楽をつくっている。 ○B基準未満の生徒への指導の手だての例 反復、変化、対照などの構成に着目させながら、音楽をつくることができるように支援する。

4 本時

(1) 目標：反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に取り組む。

(2) 展開

学習過程	学習活動【形態】	指導上の留意点	備考 (☆評価)
導入 10分	1 校歌を歌う。【一斉】 2 リズム打ちの練習をする。【一斉】 3 本時のめあてを知る。【一斉】	・ストレッチ、校歌斉唱 ・練習を二人組で行い、拍の裏を意識させる。 ・付点四分音符の拍数を確認する。 ・模範の演奏を聴く。	C D
展開 25分	構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう。		
	4 教科書P.31の1「リズムのもと」の例を全員で演奏し、「リズムのもと」のつくり方を理解する。【一斉】 5 1人1つずつ好きな材料を選んで「リズムのもと」を3つ作り、ワークシートに記入する。【個人】 6 教科書P.31の2のリズムの例を全員で演奏し、「リズムのもと」を繰り返したりつなぎ合わせたりして、2小節のリズムをつくることを理解する。【一斉】 7 自分がつくった「リズムのもと」を繰り返したりつなぎ合わせたりして2小節のリズムをつくり、ワークシートに記入する。【個人】	・例を手拍子しながら全員で演奏させる。 ・例の①②③の楽譜を見比べさせ、音の長さの違いに気づかせる。 ・野菜の名前を読ませて、音数や抑揚に合ったリズムをつくらせる。 ・例を基に、反復や変化などについて理解させる。 ・例以外にも考えられるリズムについて考えさせ、演奏してみる。 ・ワークシートに1でつくったように①②③を書かせ、「リズムのもと」を切り離して、並べ替えて演奏させながらつくらせる。	電子黒板 ワークシート 電子黒板 ワークシート
まとめ 15分	【おおむね満足できる(B)と判断される状況の例】 反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組んでいる。 【十分満足できる(A)と判断される状況の例】 反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに興味をもち、それらを生かし音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に楽しく主体的に取り組んでいる。 【B基準未満の生徒への指導の手だての例】 複数の例を示しながら、それらを組み合わせて作らせる。【ワークシート】		
	8 自分がつくった2小節のリズムを発表する。【グループ、一斉】 9 教科書P.31の3「サラダを盛りつける音楽」で重ね方の例を、4「サラダを食べる音楽」で少しずつ食べる方法の例を試し、リズムアンサンブルの合奏へのイメージをもつ。【一斉】 10 次時の活動について教師の話聞く。【一斉】	・隣席の生徒どうしで演奏をさせ、互いの演奏の特徴を発表させる。 ・範唱1を聴かせ、各パートが減っていくことに気づかせる。 ・範唱2を聴かせ、4の譜例について理解させる。	ワークシート C D